

外郭団体ミッション遂行評価票

【平成27年度取組結果】

団体名	血倉登山鉄道株式会社
-----	------------

所管課	産業経済局 観光課
-----	-----------

<p>団体に対するミッション</p> <p>本市の代表的な観光地の一つである血倉山山頂への唯一の公共交通手段である血倉山ケーブルカー等を運行することで、産業観光や夜景観光の誘致など血倉山周辺地区への本市の観光戦略の一翼を担う。</p>
---

<p>行財政改革大綱における見直し内容</p> <p>今後も、平成22年度に策定した「経営改善計画」に基づき、健全経営の維持に努める。</p>
---

ミッションに基づく中期計画

3～5年後に目指す状態	着実な経営改善に取り組む。
-------------	---------------

主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）						
	H26 実績	H27 目標 実績		H28 目標	H29 目標	H30 目標	H31 目標
当期純利益	10,179千円	当期純利益の確保	14,449千円	当期純利益の確保	当期純利益の確保	当期純利益の確保	当期純利益の確保
純資産	6,712千円	黒字（累積損失の解消）	21,161千円（累積損失解消）	—	—	—	—
長期借入金	71,600千円	市借入金の確実な返済	66,500千円	市借入金の確実な返済	市借入金の確実な返済	市借入金の確実な返済	市借入金の確実な返済

ミッションの遂行状況の評価（平成27年度）

<p>団体における評価</p> <p>成果指標である①黒字経営の確保、②債務超過（累積損失）額の解消、③市借入金の返済の3つは全て達成できた。活動指標である「ケーブルカー利用者数」については、目標20万人に対し19.5万人と僅かに届かなかったが、過去7年間で平成25年度に次ぐ利用者数であり、昨年度比約2万人増（11.3%増）の成果をあげることができると、着実な経営改善が進んでいる。また同種の事業を行っている北九州高速鉄道線への職員派遣研修を初めて実施し、経営改善と技術継承の両立等についての理解を深めることができた。</p>	<p>市の評価</p> <p>3つの成果指標全てを達成できたことは評価できる。また「恋人の聖地サテライト」選定に関連しハートモニュメントを設置するなど、若年層向けの集客促進の新たな取り組みもあり、ケーブルカー利用者数が昨年度比1割以上の増となった点も評価できる。北九州高速鉄道線への職員派遣研修は初めての取り組みであり、積極的に職員の資質向上を図っている点も評価できる。</p>
<p>今後の課題及び見直し内容</p> <p>今後も着実な経営改善に取り組むとともに、天候不順日の運行は安全第一とする。目標20万人達成に向けて、平成27年度に整備した「恋人の聖地サテライト」ハートモニュメント等の更なる活用・PR方法を検討し、若年層の集客促進を図る。また市が策定した「血倉山リニューアル計画」の推進に向けた協力を行う。</p>	<p>団体への改善指導内容</p> <p>今後も着実な経営改善に取り組む。また天候不順日の運行は安全第一とする。最も集客が期待できる8月の利用者が過去7年間の平均と比べても低く、天候不順により遠のいたピアガーデンの客足を取り戻せていないため、集客回復に向けたPR活動の強化を検討を求めていく。</p>

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

<p>見直しの分類 特に経営状況を注視する団体</p> <p>平成27年4月1日から施設名を「帆柱ケーブル」から「血倉山ケーブルカー」へ、社名を「帆柱ケーブル（株）」から「血倉登山鉄道（株）」へ変更し、中長期的なPR戦略と血倉山ブランドの確立を図ることとした。また平成27年度から血倉山山頂/血倉山の夜景が「恋人の聖地サテライト」に選定されたことに伴い、天空ドームにハートモニュメントを新設。併せて山上駅にケーブルカー神社を設置し、ハート願掛け絵馬の発売も開始するなど、若年層の集客促進に向けた積極的な取り組みを行った。</p>
--